



あ い さ つ

岡山県高等学校体育連盟
会長 延原良明

本年は、冬から春、春から夏に向かう天候が安定せず、三寒四温ならぬ三涼四暑とも言うような気候が続きました。

いよいよ「2018 彩る感動 東海総体」につながる第 57 回岡山県高等学校総合体育大会が始まりました。6 月 2 日、3 日を中心として、県下各地において高校生同士の魂がぶつかり合う感動の大会が繰り広げられることでしょう。

「籠（かご）に乗る人、かつぐ人、そのまた草鞋（わらじ）を作る人」ということわざのとおり、籠に乗るのは選手たちですが、かついでくれたり、草鞋を作ってくれるのは、各校の顧問の先生方や、応援してくださる保護者の方々、大会運営に携わってくださる先生方や生徒諸君です。こうした方々に心から厚くお礼申し上げます。

さて、本年 2 月、3 月には、韓国ピョンチャンにおいて冬季オリンピックとパラリンピックが開催され、多くの感動と勇気をもらいました。改めてスポーツの持つ力を実感した次第です。

特に、女子スピードスケートや「そだね～」が流行語にもなった女子カーリングの大活躍は、皆さんの記憶にもしっかりと残っていることでしょう。また、パラリンピックでは、岡山県出身の新田佳浩選手が 37 歳という年齢をものともせず、金メダルと銀メダルを獲得する快挙を成し遂げられ、岡山県民としてたいへん誇らしい思いがしました。

両大会を観戦していて頭に思い浮かんだのは、「グッドルーザー（良き敗者）」という言葉でした。スピードスケートの 500 メートルで金メダルを獲得した小平奈緒選手は、オリンピック新記録で滑り終えた後で、ライバルである地元韓国のイ・サンファ選手が滑る前に、観客に対して「静かにしてあげて」という意味で口に人差し指を当てた仕草をしました。そしてイ・サンファ選手が滑り終わって自分の金メダルが決まった後で、寄り添って敗者を讃える小平

選手の姿には世界中が感動しました。これまでオリンピックでは負け続けて悔しい思いをしてきていただけに、相手の気持ちを慮ることができたのでしょう。今回は勝者ではありましたが、これまで「グッドルーザー」であったであろうことが、敗者に寄り添う姿から容易に想像出来ました。

また、女子カーリングの韓国との準決勝で、日本の負けが決まった瞬間に即座に手袋を外して韓国選手に握手を求めた藤沢五月選手の姿。続くイギリスとの3位決定戦では、イギリスの勝利が間違いないだろうと誰もが思っていた最後の一投で日本の勝利が決まった瞬間、イギリス選手が即座に手袋を外して日本選手に握手を求めた姿。「グッドルーザー」とは、彼女たちのように、勝った時も負けた時も、その結果を素直に認め、相手をリスペクト（大切に思う）できる選手たちのことを言うのだと再認識させられました。

高校生アスリートの皆さんが、たとえどんな結果であろうと、対戦相手、指導者や応援してくださる方々、そして大会運営に携わる総ての方々に対してリスペクトの心を持ち、どんなに嬉しくても、どんなに悔しくてもリスペクトする気持ちを行動に移せる選手であって欲しいと心から願います。

スポーツは人生を豊かにしてくれるもののはずです。最後まで勝ち続けることのできる個人やチームはごく僅かです。負けてしまった個人やチームであろうと、インターハイへの出場権を獲得した個人やチームであろうと、同じスポーツを愛する仲間です。互いをリスペクトし合えるアスリートであることが、これからの皆さんの人生を豊かにしてくれると信じています。

本大会に関わる全ての高校生の皆さんの健闘と活躍を心からお祈りします。